

MACF 新年礼拝

2022年1月2日

ヘブライ人への手紙 11 章

「この世では旅人・・・行き先も知らずに」

11:8 信仰によって、アブラハムは、自分が財産として受け継ぐことになる土地に出て行くように召し出されると、これに服従し、行き先も知らずに出発したのです。

11:9 信仰によって、アブラハムは他国に宿るようにして約束の地に住み、同じ約束されたものを共に受け継ぐ者である

イサク、ヤコブと一緒に幕屋に住みました。

11:10 アブラハムは、神が設計者であり建設者である堅固な土台を持つ都を待望していたからです。

\*\*\*\*\*

新年おめでとうございます。

同じ場所に集まったの礼拝ができませんが、心をひとつにしてそれぞれが礼拝を捧げるとき、そこにイエス様がおられます。そして、イエス様によって結ばれ同じ絆の中に生かされていることを深く味わうことができます。

今朝のタイトルは「この世では旅人。行き先も知らずに」です。

このヘブライ人への手紙 11 章は信仰者列伝とも言える箇所です。いろいろな時代の信仰者たちの姿が書き出されています。

その中に出てくる「アブラハム」の信仰姿勢について学びながら、今年 1 年間のわたしたちの姿勢として受け止めて行けたらと思います。

アブラハムについては創世記 11 章後半から個人名が出てきてその一家の信仰による旅と困難、祝福が描かれています。アブラハムはもともとはアブラムという名で、途中で改名されています。

アブラムは「高貴な父」アブラハムは「多くの民の父」という意味があります。

まさにアブラハムはイスラエル民族の父祖と言われる人物となります。

アブラハムが 75 歳の時、彼は神様からの語り掛けを聞きます。

創世記 12 章

12:1 主はアブラムに言われた。

「あなたは生まれ故郷父の家を離れてわたしが示す地に行きなさい。

12:2 わたしはあなたを大いなる国民にしあなたを祝福し、

あなたの名を高める祝福の源となるように。

12:3 あなたを祝福する人をわたしは祝福しあなたを呪う者をわたしは呪う。

地上の氏族はすべてあなたによって祝福に入る。」

12:4 アブラムは、主の言葉に従って旅立った。ロトも共に行った。

アブラムは、ハランを出発したとき七十五歳であった。

12:5 アブラムは妻のサライ、甥のロトを連れ、蓄えた財産をすべて携え、

ハランで加わった人々と共にカナン地方へ向かって出発し、  
カナン地方に入った。

\*\*\*\*

実はアブラハムも、また父テラもウルという土地に住んでいたのですが  
父テラが何か心を感じる事があってウルからカナン地方に旅をし  
途中ハランというところで旅を止め、そこに定住します。

父はそこで人生を終わります。もしかすると、父はテラはもっと  
進むべきだったのかもしれませんが。でも、旅を断念してしまっているのです。  
そういう背景の中に神はアブラハムに声をかけました。

1) 神が示す土地・祝福の土地：現状から離れて・・・

アブラハムはその勧めを受け入れ、どこに行くのは明確には  
わかっていないけれど、それまで定住していた場所から移動を  
開始します。

それはいわゆる単身赴任ではなく全家族を引き連れての大移動  
でした。

ですから、どこに行くのかわからない、という状況は家長である  
アブラハムにとっても家族にとっても大きな不安だったに違い  
ありません。

不思議なことですが、アブラハムには神への信頼がありました。  
神の祝福をもたらす存在となり、自分だけでなく、自分にかかわる  
多くの人たちにとって神の祝福を受け取る土台となることを  
アブラハムは信じたのです。それはアブラハムにとっては  
嬉しいことでした。

しかし、その段階で75歳のアブラハムには息子も娘もいませんでした。

ですから、一般的には「アブラハムが多くの人の父となる」とか

「その民全体に祝福をもたらす父となる」という約束はいわば

「絵空事」のように感じて不思議ではありませんでした。

でも、アブラハムはその約束を信頼したのです。

つまり、アブラハムは「行く先も知らず」「状況的には  
まったく不可能」と思われる約束を信じて前に進んだのです。

2) 主の言葉に従った

新約聖書のヘブライ人への手紙の記者は

11:8 信仰によって、アブラハムは、自分が財産として  
受け継ぐことになる土地に出て行くように召し出されると、  
これに服従し、行き先も知らずに出発したのです。」

アブラハムは神の約束を信頼し、服従し、行動しました。  
それによって「信頼している」ことが明らかになりました。  
創世記では

「12:4 アブラムは、主の言葉に従って旅立った。ロトも共に行った。  
アブラムは、ハランを出発したとき七十五歳であった。」と  
書かれています。  
神が心の中に語りかけ「促しを与え、勇気と希望を与え」  
前に進ませてくださったとしか考えられません。  
当時の年齢表記が現代のそれとはちょっと違うとしても  
75歳からまったく新しいところに「一族全部が移住」して  
「新しい形で繁栄を経験する」ということに踏み出すことは簡単ではありません。

もしかすると、アブラハムは父テラの旅の断念という出来事を見て  
そこに哀しさを感じていたかもしれません。本来テラはそこに定住すべきでなく  
神様が促してくれていた場所に住むべきだったのだとアブラハムは心の中に  
認めていたのかもしれません。

### 3) 幕屋に住んだ

しかし、その旅は過酷であり、いくつかの課題がありました。  
そして、その生き方は「旅」だったので「定住」という発想はなく天幕生活を継続したと聖書は語ります。  
この地上では天幕生活、つまり、不便な、軟弱な、不安の多い生活でした。  
でも、なぜ、それができたのか、それに耐えることができたのかといえば「そういう生き方を全うすること  
で神が用意してくださっている神の都に住むことができる」と信じていたからです。  
今の苦労は「永遠の祝福をもたらすもの」という考えを持っていたのです。  
ヘブライ人への手紙 11 章

11:9 信仰によって、アブラハムは他国に宿るようにして約束の地に住み、  
同じ約束されたものを共に受け継ぐ者であるイサク、ヤコブと一緒に幕屋に住みました。

11:10 アブラハムは、神が設計者であり建設者である堅固な土台を持つ都を  
待望していたからです。

この世では悩みがあり、不安があって当然だということを私たちは知る必要が  
あるのかもしれません。

そして、そういう不安が大きくても、永遠的な視野から見ればそれは「束の間」であることがわかります。  
ペトロはその手紙の中でこう書きました。

### ペトロの手紙第一 1 章

1:5 あなたがたは、終わりの時に現されるように準備されている救いを受けるために、神の力により、  
信仰によって守られています。

1:6 それゆえ、あなたがたは、心から喜んでいるのです。

今しばらくの間、いろいろな試練に悩まねばならないかもしれませんが、

1:7 あなたがたの信仰は、その試練によって本物と証明され、火で精錬されながらも朽ちるほかない金よりはるかに尊くて、イエス・キリストが現れるときには、称賛と光栄と誉れとをもたらすのです。

1:8 あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれています。

1:9 それは、あなたがたが信仰の実りとして魂の救いを受けているからです

神の促しに基づいて、約束の地に「行先も知らず、人間的には不可能」と感じられるにもかかわらずアブラハムは出て行きました。

その土台は「神の言葉・神の約束」でした。

まだその段階では目に見えない「栄誉」「祝福」「仲間の祝福と繁栄」を信じ、現状の不安に耐え、傲慢にならず、見栄をはることもなく天幕生活に甘んじたのです。

そして、自分はその祝福の始まり、発展の最初の部分を担えることの幸いを深く感じて、アブラハムは生きたのです。

自分の栄誉、自分の出世、自分の繁栄というよりも、むしろ、あとに続く人たちへの祝福を信じて、アブラハムその時代を真剣に生きたのです。

それは今、私たちが置かれている状況と似ているかもしれません。今までの集まり方、考え方、などがコロナ禍によって変えられここからまさに「新しい方向に」進むべきことが促されています。

皆さんの人生の中に、どういう促しが与えられているのかぜひ、じっくり考え、神様と向き合ってみてください。

臨床美術を立ち上げた彫刻家の故金子健二先生は、この「行先を知らずに」という言葉が好きでした。臨床美術は今でこそ 2000 人を超える臨床美術士が日本中で活躍していますが、当時、誰もやったことも考えたこともない手法だったので、理解を得ることは本当に難しかったと思います。しかし、先生は進みました。「どうなるかわかりませんが、とりあえず 10 年やってみましょう」と始めたのです。

そして、金子先生が伊奈町に臨床美術を活用するデイサービスを併設したクリニックを立ち上げた脳外科医で、臨床美術の立ち上げから関わってこられた木村伸先生に対して送った言葉はやはり「行先を知らずに」というものでした。

「わたしたちの人生は厳密に言えば「行先を知らずに」前に進んでいるようなものなのです。ただ、信頼できる言葉があり、仲間があり、自分の心に確信があるなら、そこにはきっと神様からの祝福が待っている。そういう冒険ができることは素晴らしいことだと思います」と金子先生はよく言っておられました。私も仲間のひとりとして、その働きに参加させていただき、間違いなく、さまざまな祝福が広がっていることを実感しています。

この新しい年 2022 年。何が待っているのかわかりません。

行先はわからないことが多く、不安もたくさんあります。でも、祝福の言葉は私たちに届いています。

パウロの勧めの言葉を送ります。

ローマの信徒への手紙 12 章

12:9 愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れず、

12:10 兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。

12:11 怠らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。

12:12 希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。

12:13 聖なる者たちの貧しさを自分のものとして彼らを助け、旅人をもてなすよう努めなさい。

12:14 あなたがたを迫害する者のために祝福を祈りなさい。祝福を祈るのであって、呪ってはなりません。

12:15 喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

12:16 互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々と交わりなさい。自分を賢い者とうぬぼれてはなりません。

12:17 だれに対しても悪に悪を返さず、すべての人の前で善を行うように心がけなさい。

12:18 できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に暮らしなさい。

これらがこの世を旅するわたしたちの生き方になりますように。

\*\*\*\*

MACF 新年礼拝の映像はこちらです。

<https://youtu.be/7T97WpydUsU>